

トリコエースの使い方と応用事例

昨年の気象は異常でした、高温に水不足で露地栽培は大きな打撃を受けてしまいました。

昨年の成果はトリコデルマ菌の二種類を使って生育に効果があったことが判明したことです。

また雪解けが遅く、春の作業が集中することになり、秋の収穫後に活性炭とトリコデルマ菌を入れて事前に菌を増やしておくのが良いようです。

事前に活性炭とトリコのAタイプを投入する。(パウダーなので均一に混ぜるのには工夫が必要です)

生育中盤でBタイプを追加投入する。

トリコのBタイプは根の発根促進効果があるため、収穫で疲れ気味の活性化になる。

効果が確認された野菜はきゅうり、とまと、ナスなど果菜類です。

トリコエースAは均一に散布する必要があります

部分的な発生なので、微生物が均等に散布されなかったか、絶対的な量が不足したと考えられます。(左のVirens投入区は発生が少ない)



8月30日、上の1本は根元で切除、反対側に何本かの発生が確認された。



8月30日右の還元消毒区の中央部にまとまった本数のホモプシス病の発生が確認された。

量を増やすか
均一性重視か

トリコエースBを使ったアスパラ延命事例



2013/11

12年経過したハウスに活性炭のパウダータイプとトリコエースBを投入した事例
普通なら改植するのですが、栽培期間がもったいないというので、ダメもと(延命工作)で投入したところ、曲がり数が少なくなったことと、収量が向上したという評価でした。掘り返しができないのでパウダータイプを上から散布することになりました。
こういう手法はリンドウやユリなどの多年生の作物に応用可能と思われます。

2015/05撮影、太いアスパラになっています。



トリコエースのAとBは同時に使用しないでください。
AとBは互いに拮抗しますので、投入時期はAを先にし、夏場などのなり疲れ対策に後からBを投入するのがベストです。

トリコエース単体の投入では効果が低いことがあります。トウモロコシの活性炭には鉄分が国内産より多く含まれているため、微生物の生育に役立つとみられるからです。その意味でも活性炭との併用をご推奨します。



株式会社 **アークネット**

■ トリコエースの種類の使い分けと投入方法 500gで100から150坪が目安



トリコエースA トリコエースB ペニシリウム菌
(VirensもBと同じ)

トリコエースAとペニシリウム菌は定植前に投入！



トリコエースAB

500g 詰め5,000円(税別)



均一に混ぜるのが大変な場合に、活性炭と微生物資材を混合する機械

苗の育苗段階でトリコエースを使って耐病性を高める方法があります。またBは発根促進機能に優れていますので、栽培途中で追加したり、育苗段階で使うのも有効です。 **なおトリコエースはABの同時使用はしないでください。** 稲の場合はBタイプを使う事でバカ苗病や立ち枯れ病対策になります。(稲は発芽させる工程で使います。)



トリコエースAのパウダータイプは均一に混ぜるのが大変です。



BとVirensは水で溶いて大麦を分離して散布します。



●マルチングする前であれば上のように散布する方法もあります。

粒タイプのトリコエースBやVirensの使用方法

2リットルの容器に200~250gのトリコエースBを入れて混ぜるのが分離しやすいです。大麦の色が緑色から茶褐色に変化するころが分離完了の目安です。2~3回に分けて繰り返してください。

その後、給水タンクに入れ、全体に行きわたるようかくはんしてから灌水パイプに流します。

天候や土壌の状態によって一度ではなく二回に分けて投入しても構いません。



分離するためによくかくはんします。



灌水チューブの目詰まり防止にろ過します



給水タンクの水と混ぜますが、ジョウロで根元にかけるやり方もあります。



3回程度繰り返すと大麦がはっきり確認できます

灌水チューブではなく点滴チューブの場合は、より細かいナイロン靴下のようなもので濾してお使いください。

トリコエースBとVirnsetは給水タンクの水と混ぜますが、ジョウロで根元にかけるやり方もあります。

根が弱った状態でトリコエースBを追加投入した事例



左が7月30日で、下が8月19日のものです

いちご栽培でトリコエースAとBの比較をしました



発根促進を目的にした関係で評価するとBの方が葉の勢いが良いという結果になりましたが、作業効率を考えるとトリコエースBが使いやすいこともあり、来年度は全面的にBに移行予定です。なお活性炭が入っていない棟との比較もできましたが、日照と気温が下がっている9月入ってからの落ち込みは20～30%で、入れない棟の50%より収量も良いとの評価です。2016年からは全棟に活性炭とトリコエースBを投入、なり疲れが発生する前の7月上旬に追加投入します。



定植前にトリコエースBを灌水チューブで投入しました。こちらの方が作業工数が少なく済むメリットもあります。左は2015年の定植前の作業と発芽状態の写真です。土壤消毒の関係で工数がかかりました。今回から大幅な作業削減ができました。



2015年は土壤消毒をした関係で時間をかけて微生物を投入したのでまばらな状態で発芽しています、投入から一週間後の状態

計算根拠		推奨使用量 1ベット当り		単位
1ベット面積は約30坪 3%計算	活性炭	30リットル	211.5	1.12袋
100坪に500gで算出	トリコエース	500g	61.4	163.3g
栽培ベッドサイズ	①延長	②幅	③深さ	④ベンチ本数
	4490	24	10	188
				散布坪数
				6,139



最近よくある質問にお答えします。トリコエースはいつ投入するのが良いか？

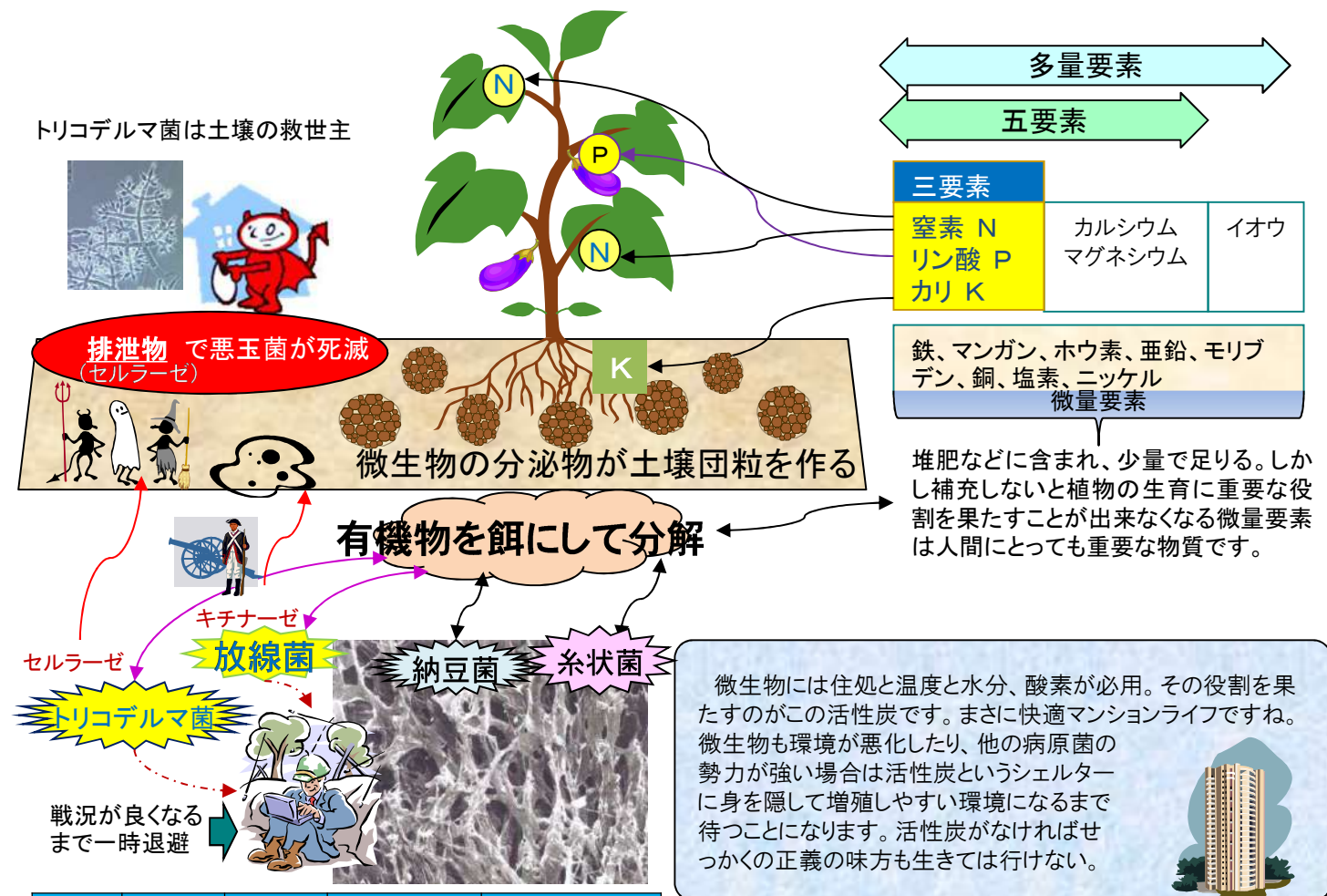


発芽まで10日前後かかります。外気温にもよりますが、地中温度が23から25度くらいが活発になる。

②栽培中にBタイプを水に溶かして畑に撒き、作物の発根促進を助長し、なり疲れを解消するという手法は果菜類栽培で多くの農家が採用されています。

トウモロコシの活性炭と微生物の共生のメカニズムと製品情報

いくら良質の堆肥を投入しても堆肥を分解する有用微生物がいなければ有機栽培も成り立ちません。特にトリコデルマ菌と放線菌は炭素源を分解するセルラーゼやキチナーゼを産生するので、肝心の有用微生物まで死滅させる土壌消毒は可能な限り回避したいところです。



	1反	1町	1a(アール)	1ha(ヘクタール)
m ²	1,000	10,000	100	10,000
坪	303	3,030	30.3	3,030

トリコエースの使い方

トリコエースは活性炭に混入して土壌にすき込むのがベストです。(また夏場の二作目は多めにすることで効果が期待できます。)

●一本の苗で長期間栽培する作物によっては、栽培途中でトリコエースBを灌水チューブで投入することで新しい根の発根促進になります。果菜類での効果検証が多くあります。

投入量は1反に1~2キロが目安です。

育苗用にパウダータイプ発売しました



育苗用

パウダー製品 10キロ無調整 (pH 9.5) 5,000円 税抜き運賃別



左が他社培土 右がパウダータイプ使用



標準製品 (pH 7.0) 3,000円 税抜き運賃別

やはり水持ちが良いため、育苗管理が楽になります。



トリコエースA 500g 入り より強力な拮抗性能の製品です。

税別 5,000円 要冷蔵 姉妹品のトリコエースBは根の生育促進の効果もあります。

お問合せ窓口 株式会社 アークネット
岩手県盛岡市中央通1丁目6-30
TEL 019-651-0411 FAX 019-651-0439
URL <http://www.arknetjapan.co.jp>

製品のお求めはお近くのJA様、又は取り扱い会社をご利用いただけます。
インターネットからの御注文も受け付けております。
オンラインショップサイト アーク農園
<https://www.arknouen.jp>